

多言語多文化研究に向けた複合型派遣プログラム  
派遣研究報告書

25年 2月 15日

派遣者氏名（専門分野）	岩崎 佳孝（アメリカ史）
-------------	--------------

下記のとおり報告します。  
記

研究テーマ	19世紀アメリカ連邦体制下における先住民自治集団（部族）主権の形成過程——先住民チカソーの成員規定と西欧的立憲共和政体「ネーション」の建設を中心に
-------	---

派遣期間

25年 1月 17日 ～ 25年 2月 1日

	国	都市	訪問機関	受入研究者
訪問研究機関	アメリカ合衆国	ブルッキングス	サウス・ダコタ州立大学	Charles Woodard (サウス・ダコタ州立大学 名誉教授)
	アメリカ合衆国	ノーマン、エイダ、サルファー、チショミンゴ	オクラホマ大学、チカソー・ネーション公文書館	Beth Alexander (チカソー・ネーション議員)
	アメリカ合衆国	テレクア	チェロキー・ネーション公文書館、トーマス・ギルクリース・ファウンデーション図書館	Gloria Sly (チェロキー・ネーション教育省 長官)
	アメリカ合衆国	ワシントン D.C.	国立公文書館、議会図書館	なし

派遣先で実施した研究内容

サウス・ダコタ州ブルッキングスのサウス・ダコタ州立大学名誉教授 Charles Woodard 氏より、博士学位申請論文を含む研究に関わる指導と助言、各種史料を得た。また、American Indian Education and Cultural Center（同大学）、South Dakota Humanities Council においても史料収集を実施するとともに、先住民へのインタビューを行った。

オクラホマ州ノーマンのオクラホマ大学 Carl Albert Center において、史料の所在と収集方法につき、アーキビストと面談した。

同州サルファーのチカソー・ネーションにおいて、OVC 受給時に求められた海外での情報発信を、下記の通り実施した（資料添付）。

- 1) チカソー・カルチュラル・センターにおいて、“Why and How A Foreign Perspective Counts When Exploring Native American History”という題目で、自身の研究内容を含む一時間程度のスピーチおよび質疑応答を行った
- 2) チカソー・ネーション経営の新聞 *Chickasaw Press* 紙、TV、およびラジオからの取材を受けた
- 3) 地方紙 *The Daily Ardmoreite* による取材を受けた

同州サルファーのチカソー・ネーション公文書館において史料収集を実施した。

同州テレクアのチェロキー・ネーションにおいて、OVC 受給時に求められた海外での情報発信を、下記の通り実施した。

1) チェロキー・ネーション発行の *Cherokee Phoenix* 紙による取材を受けた

また、同ネーション公文書館、ネーション政府において史料収集を実施すると共に、同州タルサのトーマス・ギルクリース・ファウンデーション図書館に史料の所在を確認し日本への送付を依頼した。

ワシントン D.C.の国立公文書館、議会図書館で博士論文を含む研究に関連する各種一次史料の所在についてアーキビストと面談すると共に、史料を収集した。

## 研究の当初の目的・計画の達成状況、明らかにできた成果

アメリカ合衆国内に散住する複数の先住民（[アメリカ・] インディアン、先住アメリカ人、ネイティブ・アメリカン）自治集団（バンド、部族、ネーション等と呼称される）の個別の主権の、アメリカ連邦体制内における位置づけ—換言すれば合衆国の三つの主権であるアメリカ連邦政府、諸州（邦）、先住民自治集団の関係性—の定義は、建国以来今日に至るまで複雑な課題としてあり続けている。

派遣者は現時点においては、このような独特の主権を有する先住民集団のひとつである、オクラホマ州（旧インディアン・テリトリー）のチカソーに着目している。チカソーのヨーロッパ植民前から存続していた「伝統的」エスニック・コミュニティとしての有り様が、合衆国東部に居住していた 18 世紀後半から、アメリカ連邦政府の強制移住政策によりインディアン・テリトリーに移動した後、19 世紀後半にかけて、いわゆる「純血者（full blood）」、「混血者（mixed blood）」、定着婚者（intermarried）、黒人解放民（freedmen）を包摂、あるいは排除しながらの多様な成員（メンバーシップ、部族市民権）規定の変遷と共に、西欧的立憲共和政体「ネーション」の形成へと至る過程を追っている。またそれと並行して、国内先住民に対する処遇を行う立場にあるアメリカ連邦政府為政者による施策も検討している。博士学位申請論文においては特に、19 世紀合衆国史の文脈の中で先住民自治集団のアメリカ連邦体制下における主権の所在がどのように定義され、形成され、変容してきたのかについて、先住民チカソーの成員規定と西欧的立憲共和政体「ネーション」の建設を中心に、先住民と連邦政府双方の視点からの考察を行っている。

現在は、上記に記した研究テーマの博士学位申請論文を平成 25 年度中に完成させることを目指し、研究指導教員の下で研究と執筆の作業を進めている。この度、博士学位申請論文の内容の一層の充実のため、国内においては入手が困難である一次史料の現地における収集と、先住民（研究者）からの博士論文内容に関わる知見と助言を得ることを希望し、研究指導教員もその必要性を認めたため、派遣を申請した。

派遣者はこれまでの研究活動により、史料の収蔵先についての情報と、複数の先住民（研究者）や先住民自治集団との交際関係を保持している。それ故に、申請者はこの派遣プログラムによって、各地に収蔵されている貴重かつ重要な史料を入手することと、さらに博士論文の内容に関わる知見と助言を先住民（研究者）との面談によって得ることが可能な状態にあった。さらに派遣者は、入手を希望する具体的な史料名とその収蔵機関、面談し教授を乞うべき先住民（研究者）の双方を既に特定していた。

派遣先で実施した具体的な研究内容は上記に記した通りである。特に、先住民研究のメッカのひとつであるオクラホマ大学出身で現在はサウス・ダコタ州立大学名誉教授である、著名な先住民出身作家スコット・ママディについての研究に代表される卓越した先住民研究者の Charles Woodard 氏から、派遣者はかねてより研究指導を仰いできたが、この度も博士学位申請論文を含む研究に関わる貴重な指導と助言、多くの史料を得ることができた。South Dakota Humanities Council では、先住民「混血者」のアイデンティティにまつわる文献を得た。また、実際に先住民ネーションのメンバーシップを有する人物に、アメリカ連邦政府や州政府との関わりにおける合衆国内における先住民アイデンティティ、あるいは先住民ネーション主権の在り様についてのインタビューを行うことができたことも大きな収穫であった。

オクラホマ大学 Carl Albert Center では、19 世紀中盤～後半にかけてのチカソー・ネーションの政治行為を分析するのに必要な、当時の代表的なネーション首長に関連する書簡、政治的発言、新聞記事等の文書を求めたのであるが、同伴につき詳細な知識を持つアーキビストが休暇で不在であったことと、同地における滞在可能時間が半日のみであったことから、今回は相談とアポイントメントのみとし、実際の史料は 3 月の「文化形態論研究に向けた派遣プログラム」（海外調査研究派遣）時に同地を再度訪問した際に収集することとした。

チカソー・ネーションでは全米各地アーカイブにおいてチカソー史に関連する一次史料を収集する作業を積極的に行っていることもあり、同ネーション公文書館では博士学位申請論文を含む研究に関連する多くの

貴重な史料を入手することができた。特に、19世紀後半のインディアン・テリトリーのチカソー・ネーションで発行された新聞の論説を入手できたことは大きな成果であった。

チェロキー・ネーション公文書館では19世紀中盤のチェロキー・ネーション、クリーク・ネーション、チカソー・ネーション指導者の直筆書簡を含む多くの史料を発見し、そのコピーを入手できたことは大きな収穫であった。またチェロキー・ネーション政府ではネーション政府のアメリカ連邦政府、オクラホマ州政府との関係性の中での自治の在り様を知り得る各種資料を得た。

トーマス・ギルクリース・ファウンデーション図書館の入館はあらかじめアポイントが必要であったことが判明し、また現地滞在が休館日と重なってしまった。そのため、派遣研究者は図書館アーキビストと連絡をとり、19世紀中盤の立憲共和政体チカソー・ネーション主権形成過程の分析と、19世紀中盤から後半にかけてのチカソーを含む複数の先住民ネーションによる立憲共和連合政体構想の分析に必要な史料の所在を確認すると共に、後日の日本への送付を依頼した。

国立公文書館では、合衆国建国以降のアメリカ連邦政府の対チカソー行政官報告書および、19世紀中盤以降のチカソー・ネーション黒人解放民関連のマイクロフィルム史料を確認した。また議会図書館では、19世紀後半のチカソーを含むインディアン・テリトリーの先住民ネーションによる立憲共和連合政体構想の分析に必要な議事録、*Journal of the Fifth Annual Session of the General Council of the Indian Territory* を発見した。これが貴重かつ希少な史料であることから当初コピーをとることは禁止されたのであるが、デジタルカメラ撮影によって入手することに成功した。

以上のように、当該派遣プログラムによって派遣者は学術研究上、なかんずく博士学位申請論文の完成の上で、国内に留まり続ける現状では得難い、充実した各種重要史料と先住民（研究者）からの貴重な知見と助言を得ることに成功したと考えている。特に、合衆国の主要都市部や大学等から遠隔地にあるアーカイブも訪れ、そこでしか得られない諸史料を獲得できたことは大きな収穫であった。成果の内容が数的にも質的にも非常に多岐におよぶことから、今後はそれらを順次整理しつつ、成果を盛り込んだ博士学位申請論文のより充実した内容での完成を目指したいと考えている。

最後に付言すると、海外での情報発信をオクラホマ州サルファーのチカソー・ネーションおよび同州テレクアのチェロキー・ネーションにおいて実施し、さらにはその取材記事が全国紙 *Indian Country Today* にも転載されたことは、今回の派遣を機に先住民のひとびとに日本における先住民（研究）への関心と現状を知らしめることに、ささやかながら寄与することができたのではないかと考える次第である。また、派遣中に多くの先住民のひとびとから、外国人でありながらも自分たちに強い関心を抱き、先住民についての研究と啓蒙的教育に努めている本派遣者に対し過分なほどの感謝の言葉を頂いたことと、先住民（研究）に関心を持つ日本人との交流に積極的な意向を示されたことで、研究の継続は無論のこと、日本からの情報発信と国際交流に今後も微力ながら尽力したいという思いを新たにすることも、このように多くの成果と機会を与えてくれた本派遣プログラムへの感謝の念と併せて報告しておきたい。

## 派遣後の研究発表の予定

- ・現在執筆中の博士学位請求論文の内容に派遣研究の成果を反映させ、平成25年度に提出する予定である
- ・派遣研究の成果をもとに学術論文に纏め、平成25年度の『同志社アメリカ研究』に投稿する予定である
- ・これ以外にも、派遣によって得た史料や知見は今後の研究報告や学術論文の内容にも活用し、一層充実した内容の学術研究活動を遂行したい